

かわりゆくRyuMIC

琉球大学医学部附属病院 研修医2年目 與那嶺 周平 (25期生)

琉球大学医学部医学科同窓会のみなさま、はじめまして。琉球大学附属病院初期研修医2年目の與那嶺周平と申します。今回は、研修医を代表いたしまして少しばかり研修生活を紹介させていただきます。

昨年4月に始まったRyuMICでの研修生活ですが、気が付けば早1年が経過しました。右も左も分からずただただ病院中をアタフタして、指導医の先生方に迷惑ばかりかけていた私たちですが、今年4月に18名の1年目研修医が入職したこともあり、先輩としてとりあえず気持ちだけはしゃきとしなくてはいけないと感じる今日この頃です。

当大学の初期研修プログラムの特色として、研修医の希望に合わせて沖縄県内各地の病院で研修することができる点が挙げられます。その制度を利用し、現在大学病院に所属する2年目研修医のほとんどが地域の関連病院で研修しています。私も、昨年度1年間のうち8か月間を大学病院以外で研修させていただきました。研修医として大学病院へ貢献できていないかもしれない、と申し訳ない気持ちもありますが、様々な病院で身に付けたスキルをいずれ大学病院で生かしたい、という気持ちで日々精進しております。おそらく、他の2年目研修医も同じ思いでしょう。今年度の研修も私は大学病院以外の研修施設で半年以上、研修させていただく予定です。様々な病院での研修を通して、沖縄の医療をまるごと肌で感じてその経験を医療に生かしていきたいと考えています。

話は変わりまして、この1年間で琉大附属病院の初期研修医をとりまく環境が多く変わりました。それらを紹介したいと思います。

まず1つ目ですが、平成23年12月、新たな卒後臨床研修

センターが完成しました。研修医個人のデスクが配置され（今までなかったんです）、電子カルテ端末が増え、ロッカー・仮眠室・シャワー室ができ、研修医の勤務環境も充実しました。

2つ目は、救急準夜帯勤務が始まったことです。かねてから琉球大学初期研修において、研修医が外来診療に関わる機会が少ないことがデメリットの1つとして挙げられてきました。しかし、平成23年10月より救急準夜帯勤務がスタートしたことにより、研修医が自ら外来診療を実践できる機会が増えました。

最後に、アジア最大級のシミュレーションセンター「ちゅらSim」が完成したことです。様々な設備を生かしたシミュレーション講習が展開され、私たち研修医をはじめ多くの医療従事者が利用できる施設となっています。

このように、研修環境が大きく変化し充実した昨年度。今年度からは2年目研修医を中心にして研修医同士での勉強会などを企画したり、お互いに啓発しあおうと意欲も増えています。これからも、大学病院研修医が様々な協力病院の医療スタッフの皆様にお世話になるかと思いますが、日々精進し研修に励んでいきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻よろしくお願いいたします。

